

運用報告書(全体版)

第1期

(決算日:2016年9月12日)

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/株式
信託期間	平成37年9月12日まで(設定日:平成27年9月30日)
運用方針	わが国の金融商品取引所に上場する株式を主要投資対象とし、「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」を活用し、株式市場への不安心理(ストレス)が高まっていると判断される場合には、株式の実質投資比率を引下げ、ファンドの基準価額下落リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場する株式を主要投資対象とします。また、主として日経平均株価を構成する現物株式、日経平均株価への連動を目指すETF(上場投資信託)への投資を行うとともに日経平均株価を対象とした株価指数先物取引などを活用します。
組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。外貨建資産への投資は行いません。デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。
分配方針	年1回(原則として9月12日。休業日の場合は翌営業日。)決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

日本株リスク・コントロール 戦略ファンド (愛称:スマート・リターン)

追加型投信/国内/株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「日本株リスク・コントロール戦略ファンド(愛称:スマート・リターン)」は、2016年9月12日に第1期決算を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

〒106-6017 東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間:営業日の9:00~17:00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.co.jp/>

 SBI Asset Management

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	騰 落 率		投 資 信 託 券 率 組 入 比	純 資 産 額
		税 分 込 配 金	期 騰 落 中 率		
(設定日) 2015年9月30日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 102
1期(2016年9月12日)	8,997	0	△10.0	67.7	141

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注3) 当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

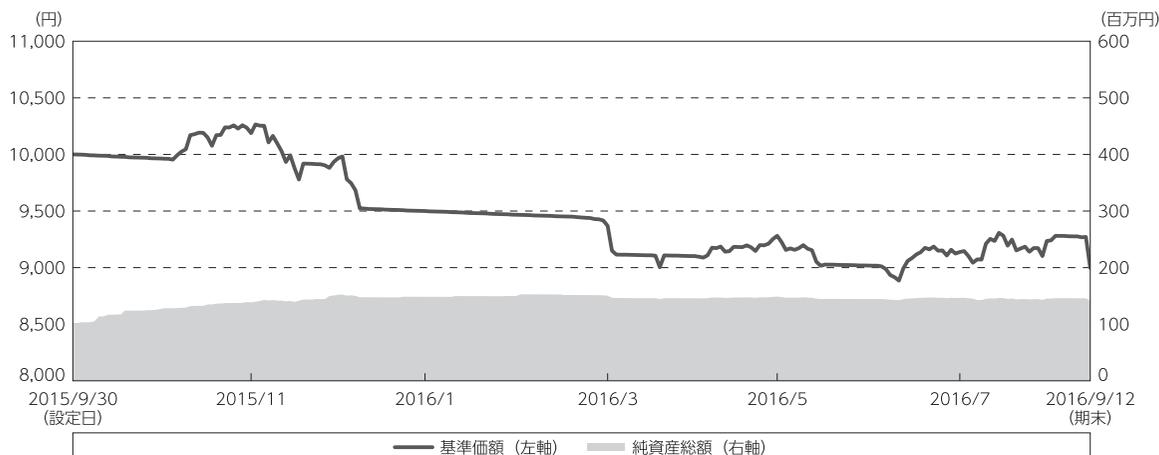
年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		投 資 信 託 券 率 組 入 比
		騰 落	率	
(設定日) 2015年9月30日	円 10,000		% —	% —
10月末	9,961		△ 0.4	—
11月末	10,188		1.9	67.4
12月末	9,982		△ 0.2	67.4
2016年1月末	9,500		△ 5.0	—
2月末	9,468		△ 5.3	—
3月末	9,369		△ 6.3	66.5
4月末	9,102		△ 9.0	—
5月末	9,281		△ 7.2	35.0
6月末	9,017		△ 9.8	—
7月末	9,138		△ 8.6	34.0
8月末	9,281		△ 7.2	—
(期 末) 2016年9月12日	8,997		△10.0	67.7

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) 当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2015年9月30日から2016年9月12日まで）

○基準価額等の推移



設定日：10,000円

期末：8,997円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：△ 10.0%（分配金再投資ベース）

(注1) 当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドはパークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数の判定シグナルが示す株式市場への不安心理（ストレス）および株価トレンド傾向に基づき、株式の組入比率を調整しつつ運用を行いました。

パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数の判定において、投資配分決定のためのシグナルとして、日経平均株価・日経ボラティリティ指数のトレンド判定を用います。今期は、日経平均株価・日経ボラティリティ指数の価格トレンドが、シグナルの参照期間と同等の期間で反転を繰り返す局面が多くみられました。

同指数が示す判定結果により、株式組入比率を0%に維持した期間が長期間に渡りました。大幅な下落局面で基準価格下落を軽減した一方、短期的な上昇ではマイナス寄与となりました。

○投資環境

設定日（2015年9月30日）から11月にかけては、国内株式市場は概ね上昇基調で推移しました。日銀の追加緩和期待の高まりや環太平洋経済連携協定（TPP）交渉の大筋合意、2015年最大の新規株式公開（IPO）となる郵政3社の初値が、公募価格を上回り堅調に推移すると買い安心感が広がりました。欧州での地政学リスクの高まりが嫌気され、一進一退の動きが続いた局面もあったものの、総じて緩やかな上昇が続きました。

12月から2016年2月にかけては、下落基調となりました。欧州中央銀行（ECB）が追加金融緩和を決定したものの、小規模な内容に株式市場は失望売りが優勢となりました。その後、米連邦公開市場委員会（FOMC）で約9年半ぶりとなる利上げが決定されたことから上昇に転じたものの、年明けに中国の景気減速懸念に端を発した世界的な株安から日経平均株価は年初から6営業日連続で下落しました。その後も原油価格の安値更新を背景にリスク回避的な動きが強まりました。

3月から7月半ばにかけては値動きの荒い投資環境となりました。中国による追加金融緩和や原油価格の底打ちが好感され買戻された局面もありましたが、日銀金融政策決定会合で現状維持が決定されると、円高進行とともに株式は下落に転じました。その後も為替動向、原油価格動向、英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票、米国の利上げ時期への思惑を要因として、大きく上下に動く展開となりました。

7月半ばから期末にかけては、底堅く推移しました。米国の良好な雇用情勢、参院選での与党の勝利、日銀による上場投資信託（ETF）の買入倍増を受けて底堅く推移し期末を迎えました。

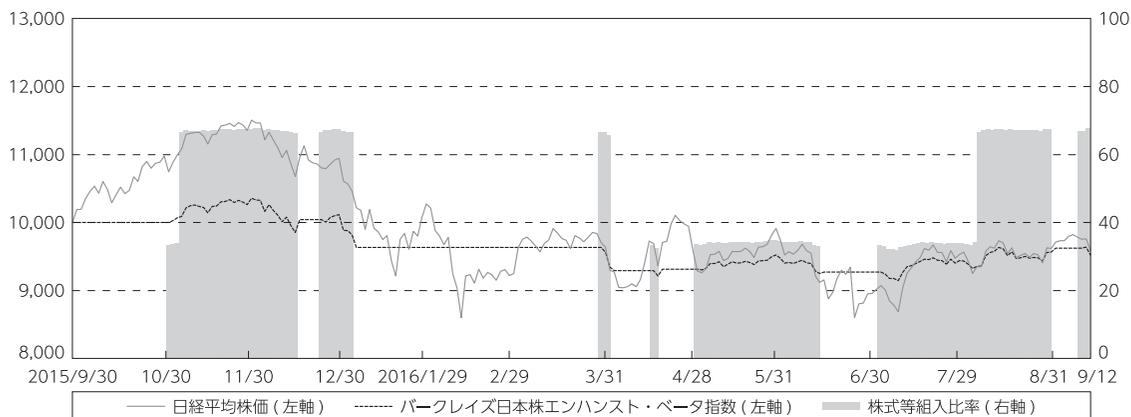
○当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、株式市場への不安心理（ストレス）が高まっていると判断される場合には、株式の実質組入比率を引下げ、ファンドの株価下落による影響の低減を目指しつつ運用を行いました。

株式の組入比率に関しては、相場局面に応じて0～100%の範囲で調整を行いました。

なお当期末の株式組入比率は67.7%となっております。

設定来の当ファンド株式組入比率等の推移



※出所：ブルームバーグのデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

※日経平均株価とパークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数は2015年9月30日を10,000として指数化しております。

※パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数については、最終頁をご参照ください。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

○分配金

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2015年9月30日～ 2016年9月12日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

引き続き、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、株式市場への不安心理(ストレス)が高まっていると判断される場合には、株式の実質組入比率を引下げ、ファンドの株価下落による影響の低減を目指しつつ運用を行います。

また、株式の組入比率に関しては、相場局面に応じて0～100%の範囲で調整を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年9月30日～2016年9月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 135	% 1.421	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(74)	(0.772)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(59)	(0.618)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	81	0.854	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(81)	(0.854)	
(c) そ の 他 費 用	358	3.762	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(22)	(0.228)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 ）	(172)	(1.804)	開示資料等の作成・印刷費用等
（ そ の 他 ）	(165)	(1.731)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	574	6.037	
期中の平均基準価額は、9,523円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注6) その他費用には「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」の使用料（1万口当たり156円）が含まれています。

○売買及び取引の状況

(2015年9月30日～2016年9月12日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	日経225連動型上場投資信託(野村)	口	千円	口	千円
		33,153	589,671	27,504	484,627

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2015年9月30日～2016年9月12日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2016年9月12日現在)

国内投資信託証券

銘柄		当期末		
		口数	評価額	比率
	日経225連動型上場投資信託(野村)	口	千円	%
		5,649	95,807	67.7
合計	銘柄数 < 比率 >	5,649	95,807	
		1	<67.7%>	

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

○投資信託財産の構成

(2016年9月12日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	95,807	39.3
コール・ローン等、その他	147,680	60.7
投資信託財産総額	243,487	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年9月12日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	243,487,791
コール・ローン等	147,680,751
投資信託受益証券(評価額)	95,807,040
(B) 負債	101,959,472
未払金	97,663,592
未払信託報酬	991,519
未払利息	404
その他未払費用	3,303,957
(C) 純資産総額(A-B)	141,528,319
元本	157,298,085
次期繰越損益金	△ 15,769,766
(D) 受益権総口数	157,298,085口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,997円

<注記事項 (運用報告書作成時には監査未了) >

(貸借対照表関係)

期首元本額	102,021,449円
期中追加設定元本額	59,767,913円
期中一部解約元本額	4,491,277円

○損益の状況 (2015年9月30日～2016年9月12日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	763,158
受取配当金	794,088
受取利息	3,348
支払利息	△ 34,278
(B) 有価証券売買損益	△ 8,868,772
売買益	4,157,699
売買損	△13,026,471
(C) 信託報酬等	△ 7,380,707
(D) 当期損益金(A+B+C)	△15,486,321
(E) 追加信託差損益金	△ 283,445
(配当等相当額)	(△ 1)
(売買損益相当額)	(△ 283,444)
(F) 計(D+E)	△15,769,766
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△15,769,766
追加信託差損益金	△ 283,445
(配当等相当額)	(△ 1)
(売買損益相当額)	(△ 283,444)
繰越損益金	△15,486,321

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)より分配対象収益は0円(10,000口当たり0円)ですが、当期に分配した金額はありません。

<ご参考>

投資対象ファンドの概要

投資対象ファンド	投資対象	連動する指数	経費率	委託会社
日経225連動型上場投資信託	国内株式	日経平均株価（日経225）	0.2592%	野村アセットマネジメント株式会社

組入上位10銘柄	比率
ファーストリテイリング	7.8%
KDDI	4.4%
ファナック	4.1%
ソフトバンクグループ	4.0%
京セラ	2.3%
東京エレクトロン	2.1%
ダイキン工業	2.1%
テルモ	2.1%
アステラス製薬	2.0%
セコム	1.8%

組入上位業種	比率
電気機器	16.6%
情報・通信業	11.8%
小売業	10.3%
化学	8.4%
医薬品	8.1%

出所：野村アセットマネジメント株式会社のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成
 (注) 2016年7月29日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第1期期末時点のものであり、将来変更される場合があります。

パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数について

パークレイズ・バンク・ピーエルシー及びその関連会社（以下「パークレイズ銀行グループ」といいます。）は、リスク・コントロール戦略（以下「本戦略」といいます。）の策定者ではなく、パークレイズ銀行グループは、本戦略及び本戦略に基づくパフォーマンスについて、投資家の皆様に対して何ら責任又は義務を負いません。パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数（以下「本指数」といいます。）は、パークレイズ・バンク・ピーエルシーが所有する商標であり、本戦略において使用するためにライセンスを付与しています。本戦略の投資家の皆様は、本戦略への投資により、本指数へのいかなる権利も取得せず、また、パークレイズ銀行グループとのいかなる関係も取得しません。本戦略は、パークレイズ銀行グループによって出資、承認又は推進されておらず、パークレイズ銀行グループは、本指数又は本指数に含まれるいかなる情報の推奨度又は使用に関して何らの表明も行いません。パークレイズ銀行グループは、本指数又は本指数に含まれるいかなる情報の使用又は正確性に関して、投資家の皆様又はその他の第三者に対して、いかなる形態においても何らの責任も負わないものとします。